

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	生徒も学び方も多様化する今日、生徒の予測困難な時代に生き抜く力(エージェンシー)の育成のため、コンテンツベースではなく、コンピテンシーの育成を目指す。 授業において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、場面や状況に応じた学び方ができる生徒を育成する。
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	一人ひとりに目を向けた指導体制が本校のベースになるようにするため ①授業によって生徒が自ら課題を持ち、考え、主体的に学習に取り組む力を育成する。 ②UDLの3原則であるインプット・アウトプット・モチベーション維持のための選択肢を、生徒自身が選べる授業展開を学校全体で行う。 ③教師自身が「学びたい」と思える環境づくり、実践やお互いに向上し合える雰囲気づくりに努める。

ざらざら(構円)

⑤	年度末評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
↓	
今年度の成果と 次年度の課題	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	↓
結果から考えられる 児童生徒の実態	

調査の振り返り(4月)

結果から考えられる
児童生徒の実態

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	↓
結果から考えられる 児童生徒の実態	

- ①学校全体での取組
- ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用
- ③中間評価を経た取組
- ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
↓	
学力向上策の 見直し	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所